

支部長就任のご挨拶

北陸電力株式会社 穴田 文浩

この度、4月20日の支部総会において、32代目公益社団法人地盤工学会北陸支部長を拝命することになりました。今年度の支部総会は、新型コロナウイルス感染症への対応として内閣府からの公益法人の運営に関するお知らせに基づき、皆様から委任状をいただき、新旧役員によるメール審議で行われました。

北陸支部は、昭和35年の発足以来、今年で60周年の還暦を迎えます。還暦は、干支である十干十二支が一巡して、元の暦に還ることに由来し、赤いチャンチャンコには、もう一度赤ちゃんから生まれ変わって出直すという意味もあるそうです。まさに今年度は、心機一転、新しい第一歩を踏み出す機会でしたが、支部総会から厳しい船出となりました。

これまで人類が被って来た災厄には、転変地異や疾病など多々ありますが、昨今の自然災害については、激甚化、頻発化、広域化する傾向が認められ、そのたびに多くの人命や社会資本が失われてきています。特に、国民経済や生活を支える電力・水道等のライフラインに直結する社会資本については、自然災害時において被害を最小限に止めるとともに早期に復旧することが求められますが、すべての社会資本に対して最大限のリスクを踏まえて早急に整備・改修することは、経済的にも現実的にも不可能でしょう。しかしながら、地域住民の多くが既存社会資本は絶対安全で、日々の暮らしの安全は何時いかなる場合でも守られているとの思いが強く、災害対策は行政を始めとする社会資本の管理者の責務であり、自らの地域で類似の災害が起こった場合の行動を常日頃から意識することはなかなか難しいのが現実ではないでしょうか。これらの要因の一つとして、甚大化する自然災害の実態についての知識不足や既存社会資本の災害に対する脆弱性等に関する認識の甘さもあるのではないかと思います。

このような現実を踏まえると、地盤工学会の一つの使命は、産・学・官の枠を超えた地盤の専門家集団として各種学会とも連携し、各地域における自然災害の要因を真摯に探究するとともに、社会資本の現状とリスクを客観的に分析し、その事実を幅広く地域住民に発信していくことも重要であるように思います。

例えば、北陸支部では活動の一環として、富山県と災害協定を締結しており、その中で、自治体職員と会員に向けた研修会・勉強会を開催しています。北陸支部の活動範囲と災害の広域化を踏まえると、石川県、新潟県でも同じような災害協定を締結するとともに、さらに、その枠組みを国の機関、関連学会協、重要インフラに関連する民間企業等にも展開し、その中で、災害に関する基礎知識や既存社会資本の脆弱性等に関し、関係者や一般市民へ向けた研修会・勉強会を開催することで、幅広い理解活動を推進していくことが可能となるのではないのでしょうか。地域住民一人一人が自然災害や社会資本に対する認識を新たにすることで、命を守る最後の避難行動に対する意識改革にも繋がるのではないかと思います。

令和2年度の事業計画にもありますが、このような枠組みを確立し、地域住民の公益に繋がる学会活動を展開することで、学会の社会的認知度や会員のモチベーションの向上を図るとともに、学会活動を通して、会員相互の知識レベルの向上や技術革新のテーマの発掘に結び付けることができれば、会員相互がワクワクするような地盤工学会北陸支部を目指すことができるのではないのでしょうか。

支部長就任に当たり、大風呂敷を広げすぎた気もいたします。先代の大家悟先生を始めとする歴代支部長に比べますと力不足の感が拭えませんが、支部役員の皆様のご指導、ご鞭撻と会員の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、支部長としての務めを一生懸命果たす所存でございますので、これから2年間よろしく申し上げます。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の拡大が一日でも早く収束し、いつもと変わらぬ日常で学会活動が再開できることを祈願して私のご挨拶とさせていただきます。